

## 令和4年度 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会

令和4年10月4日(火)18時から、佐賀大学「菱の実会館」において、大学と同窓会の意見交換会を開催しました。

この意見交換会は毎年恒例で行われており、例年であれば意見交換会の後に懇親会も開催されていましたが、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行第7波のさなかであったため、意見交換会のみで開催となりました。

大学からは、兒玉浩明学長はじめ理事・副学長、各学部の学部長など13名の方にご出席いただきました。

同窓会からは、水田和彦会長はじめ各学部同窓会の会長、副会長など13名が出席し、同窓会の市場事務局長の進行で、大学と同窓会の協力のあり方などについて協議を行いました。

まず、同窓会水田会長から、同窓会の目的である会員相互の親睦融和と地域とともに未来に向けて発展し続ける佐賀大学の発展への寄与に向けて、同窓会としてお役に立てるように取り組んでいきたいとの挨拶がありました。

次に兒玉学長から、ご挨拶とあわせて大学の現状の説明があり、志願倍率や就職率が九州内国立大学の中でもトップクラスであることや、佐賀大学の新たな知の拠点として「産学交流プラザ」を開設したこと、令和4年度から取り組んでいる第4期中期計画において、同窓会を含む関係者との連携により教育の質向上のために研究組織改革に取り組んでいくことなどが紹介されました。

また、出席者それぞれから自己紹介とともに現況の報告があり、大学側からはコロナ禍の中でのハイブリッド授業やデータサイエンスへの取り組みの紹介のほか、同窓会の就職支援への感謝の言葉がありました。

各学部同窓会からも、いろいろな方法で学生へのキャリア支援等に取り組んでいることが紹介されました。

意見交換は、あらかじめ同窓会から提出していた3つの項目を中心に行いました。

まず、同窓会、大学ともに必要となる卒業生の情報の共有化について、双方ともに必要な情報であるため、今後、学生が求めている進路に関する情報も含めて取得の方法や連携の在り方について検討していくこととなりました。あわせて、在学生が同窓会を認識するための学内でのサポートについてお願いしました。

次に、大学における生涯学習の成果について意見交換を行い、卒業生が受講しやすい講座の開設や、さらなる資格取得や高度な知識技術の習得などができる取り組みをお願いしました。大学からは、従前からの公開講座のほかに、「授業開放」として学生が学んでいる正規の授業を学生と一緒に対面形式、またはオンラインで受講できる機会も提供しているとの説明がありました。

また、同窓会が行っているキャリア支援の評価と就職支援への結びつきについて質疑を行い、特に教員への就職支援については、同窓会で支援している教員採用試験対策講座には多くの参加があり成果が上がっているとの報告がありました。

開催後の同窓会代表役員会では、今回の意見交換会は事前に同窓会から質問事項を提出していたことでスムーズな進行ができたという評価があった一方、大学と同窓会の連携を深めていくために、定例的な会合ばかりではなく普段から交流を深めていくような関係づくりも必要ではないかという意見も出されました。

会報発行部長 鐘ヶ江 直雅 (農学・S56年卒農化)